

様式3

静岡県公立大学法人

令和元事業年度に係る業務の実績に関する評価結果

令和2年8月

静岡県公立大学法人評価委員会

第1 静岡県公立大学法人の令和元事業年度における業務実績評価について

静岡県公立大学法人評価委員会は、「静岡県が設立する公立大学法人に係る評価基本方針」(H19.12.5制定)に基づき、令和元事業年度の業務の実績に関する評価を行った。

1 評価に当たっての基本的な考え方

- (1) 評価を通じて、大学の教育研究及び法人運営の進捗状況等を分かりやすく示し、県民への説明責任を果たしていくものとする。
- (2) 法人の教育研究並びに組織及び運営についての様々な工夫や特色ある取組を積極的に評価するものとする。
- (3) 次期中期目標・中期計画、法人の組織及び業務運営の見直しの検討に資するものとする。

2 評価方法

- (1) 年度評価は、「全体評価」と「項目別評価」により行った。
- (2) 「全体評価」は、(3)の項目別評価を踏まえるとともに、当該年度の重点的な取組や法人の特性等に配慮しつつ、中期目標・中期計画の全体的な進捗状況を総合的に判断した。
- (3) 「項目別評価」は、法人による自己点検・評価の結果を基に、当該年度計画に定めた項目ごと、年度計画設定の妥当性も含めて総合的に検証を行い、中期目標・中期計画の達成に向けた進捗状況を確認した上で、「大学の教育研究等の質の向上に関する目標」、「法人の経営に関する目標」、「自己点検・評価及び情報の提供に関する目標」及び「その他業務運営に関する重要目標」の4つの目標別に総合的に検証した。

第2 全体評価

1 評価結果と判断理由

(1) 評価結果

静岡県公立大学法人（以下「法人」という。）の令和元年度の業務実績に関しては、全体として「**中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**」と評価する。

(2) 判断理由

法人は、静岡県立大学及び同短期大学部が、社会の発展に寄与する「知の拠点」として、年齢層や国籍を問わず、多様な人材が集まる大学づくりを推進するとともに、地域に立脚した大学であるという認識を深め、積極的に地域貢献に取り組むほか、地域への理解とグローバルな視野を兼ね備えた、グローバル化社会で活躍できる人材育成に努めるなど、本県のみならず、国内外から支持される魅力的な大学となることを目指して計画を策定し、遂行している。

第3期中期目標期間の初年度である令和元年度は、中期計画及び年度計画に基づく数々の目標の達成に向けた取組を進め、成果を挙げた1年となった。

法人の中期目標・中期計画の達成に向けた業務の進捗状況については、「第3項目別評価」のとおり、「**大学の教育研究等の質の向上に関する目標**」、「**法人の経営に関する目標**」、「**自己点検・評価及び情報の提供に関する目標**」、「**その他業務運営に関する重要目標**」の4項目について「**中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**」と認められる。

これらの状況と令和元年度の重点的な取組や法人の特性等を総合的に勘案し、(1)のとおりの評価が相当と判断した。

(3) 令和元年度の重点的な取組

ア 各種国家試験への対応

国家資格試験対策の充実・強化に努めた結果、**薬剤師国家試験**において、**新卒の合格率が100%**となった。他に新卒者全員が合格した大学は、3大学（いずれも国立大学）のみであった。

このほか、**管理栄養士、助産師、歯科衛生士、介護福祉士国家試験**において合格率100%を達成するなど、大学全体として**高い水準の国家試験合格率**を記録した。(No. 14、15、16、17)

イ 外部資金の獲得

公募説明会及び相談会の開催など応募の促進に向けた取組を進めた結果、**外部資金を409件、総額で946,598千円獲得**し、件数及び金額ともに過去の中期計画期間の年度平均を上回ったほか、金額については、6年連続で増加している。

科学研究費補助金について、**若手研究者の採択率が全国平均40%を上回る61%**となった。(No.51、74)

ウ 観光マネジメント分野の教育、研究の充実

観光マネジメント教育の初年度に当たる令和元年度は、ラグビーワールドカップで本県を訪れた外国人観光客に対するアンケート調査の実施、賀茂地域における社会人講座や地域との交流事業に向けた検討、県内のホテルや旅館と連携した観光ビジネスモデルの構築など、**本県の資源を活用した特色ある教育研究に積極的に取り組んだ**。また、観光分野における研究基盤、地域連携の拠点として「ツーリズム研究センター」を設置した。(No.5、10、45)

2 評価に当たっての意見、指摘等

- ・ 第3期中期目標期間においては、第1期及び第2期中期目標期間の実績にとらわれず、**県民から期待が寄せられる県立大学として、目標を高く掲げ、更なる飛躍を目指した法人経営を行うことを期待する**。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響により、今後、大学の教育研究活動は新しい形でのあり方を考えていく必要がある。理事長、学長のリーダーシップの下、引き続き教職員が一体となって大学の魅力向上に取り組んでいただきたい。

[参考]項目別評価の結果

1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標	I 特筆すべき進捗状況	II 順調に進んでいる	III おおむね順調に進んでいる	IV やや遅れている	V 重大な改善事項がある
2 法人の経営に関する目標	I 特筆すべき進捗状況	II 順調に進んでいる	III おおむね順調に進んでいる	IV やや遅れている	V 重大な改善事項がある
3 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標	I 特筆すべき進捗状況	II 順調に進んでいる	III おおむね順調に進んでいる	IV やや遅れている	V 重大な改善事項がある
4 その他業務運営に関する重要目標	I 特筆すべき進捗状況	II 順調に進んでいる	III おおむね順調に進んでいる	IV やや遅れている	V 重大な改善事項がある

第3 項目別評価

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

1 評価結果と判断理由

(1) 評価結果

大学の教育研究等の質の向上に関する目標の進捗状況は、「**中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**」と評価する。

(2) 判断理由

大学の教育研究等の質の向上に関する目標について、当評価委員会が検証した結果、年度計画記載の66項目中1項目が「**計画を大幅に上回って実施している**」、3項目が「**計画を上回って実施している**」、60項目が「**計画を順調に実施している**」と認められ、大学院の定員未充足等の課題は残るものの、課題の解決に向けた一定の取組は図られている。

これらの状況等を総合的に勘案し、(1)のとおりの評価に相当すると判断した。

(3) 特に評価する項目

- ・ **国際関係学部**では、グローバル化に対応して、国際社会において活躍できる人材を育成するための**新しいカリキュラムに基づく教育を開始**したほか、文部科学省の「**大学の世界展開力強化事業^{※1}**」による**オンライン教育 (COIL 型教育^{※2})**として、全学共通科目等で**海外大学との双方向の遠隔授業を実施**するなどグローバル化に向け、特色ある教育や多様な教育方法の拡充に努めている。(No22、26)
- ・ **薬学部**では、生活習慣病・がん・感染症など重要性の高い疾病の病因・治療・予防に関する研究を推進し、研究成果が **Analytical Chemistry、Circulation Research、Journal of Physiology-London** など、**当該研究分野で最高水準の国際学術誌に掲載された**。(No. 42)
- ・ 静岡県、静岡県産業振興財団とともに、健康寿命の延伸や県内の食品・ヘルスケア産業の振興を目的とした、「**健康食イノベーション推進事業**」を立ち上げ、**住民参加型の実証実験を行う「データヘルスリビングラボ」の設置や、県内企業の機能性表示食品の開発の支援に取り組んだ**。(No. 51)
- ・ 令和元年11月に**静岡県立大学 SDGs 宣言**を行い、他大学や行政と一体となって新しい時代の地域社会を作ること念頭に**学内の推進体制を整備し、今後、全学を挙げて取り組んでいく**。(No. 55)

※1 大学の世界展開力強化事業:日本人学生の留学と外国人学生の受入れを行う国際教育連携の取組を支援する文部科学省事業

※2 COIL 型教育:オンライン教育手法の進化を国際的な大学間交流に応用した、新しい教育実践の方法

(4) 課題とする項目

- ・ 大学院において入学定員が未充足の状態が続いている。特に**薬食生命科学総合学府環境科学専攻（博士後期課程）**においては、**令和2年度の在籍学生数が1名と、学生確保に困難が生じている**。博士後期課程の定員未充足が全国的な課題となっている中、**学生確保策の強化及び学府全体の将来像を議論する必要がある**。(No. 27)
- ・ 平成29、30年度に続き、**出題ミス**を原因とする**入試ミスが3年連続で発生**しており、過去2回のミスにおいて、**チェック体制の強化が行われたが、効果が表れていない**。信頼回復に向け、**全学を挙げて再発防止策を講じることが必要である**。(No. 29)

2 評価に当たっての意見、指摘等

- ・ **保健師国家試験**において、令和元年度の**合格率が全国平均を下回った**。今後、恒常的に全国平均を下回ることがないように、**対策の充実に努められたい**。(No. 16)
- ・ 国際関係学部では、**令和元年度より、初年次の学生に対して英語ネイティブ教員による課題解決型授業（PBL）を導入するなど、実践的な英語力の育成を図っている**。今後、取組の成果が数値目標（TOEIC L&R IP テストスコア）の達成につながることを期待する。(No. 22)
- ・ 大学院に定員未充足の専攻がある一方、**定員を超過している専攻があるため、定員管理を適切に行う必要がある**。(No. 27)
- ・ **COIL型教育で培ったオンライン授業のノウハウが、今後リカレント教育や高大連携、大学間連携などに活用され、魅力ある教育プログラムの提供につながることを期待する**。(No. 26)

[参考]小項目評価の集計結果

	評価対象 項目数	SS 計画を大幅 に上回って 実施	S 計画を 上回って 実施	A 計画を順調に 実施	B 計画を十分 には実施し ていない	C 業務の 大幅な見直 し等が必要
1 教育	41	1	0	38	2	0
2 研究	12	0	3	9	0	0
3 地域貢献	8	0	0	8	0	0
4 グローバル化	5	0	0	5	0	0
合 計	66	1 (1.5%)	3 (4.6%)	60 (90.9%)	2 (3.0%)	0

II 法人の経営に関する目標

1 評価結果と判断理由

(1) 評価結果

法人の経営に関する目標の進捗状況は、「**中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**」と評価する。

(2) 判断理由

法人の経営に関する目標について、当評価委員会が検証した結果、年度計画記載の11項目中1項目が「**計画を上回って実施している**」、10項目が「**計画を順調に実施している**」と認められ、これらの状況を総合的に勘案し、(1)のとおりの評価に相当すると判断した。

(3) 特に評価する項目

- ・ 自己資金の確保に努め、**外部資金について、第1期及び第2期の計画期間の年度平均を上回る409件、総額946,598千円を獲得した。**(No.74)
- ・ 静岡大学グリーン科学技術研究所と共同利用機器の相互利用を行うことで研究連携を強化した。また静岡大学、浜松医科大学との3大学ジョイントシンポジウムを開催し、教員間の相互連携を強化した。(No.68)

2 評価に当たっての意見、指摘等

- ・ **科学研究費補助金の確保**については、取組の成果が認められるが、**応募する教員の割合が増加するよう、更なる取組を期待する。**(No.51、74)

[参考]小項目評価の集計結果

	評価対象 項目数	SS 計画を大幅 に上回って 実施	S 計画を 上回って 実施	A 計画を順調に 実施	B 計画を十分 には実施し ていない	C 業務の 大幅な見直 し等が必要
1 業務運営の 改善	7	0	0	7	0	0
2 財務内容の 改善	3	0	1	2	0	0
3 施設・設備の 整備、活用	1	0	0	1	0	0
合 計	11	0	1 (9.1%)	10 (90.9%)	0	0

Ⅲ 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標

1 評価結果と判断理由

(1) 評価結果

自己点検・評価及び情報の提供に関する目標の進捗状況は、「**中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**」と評価する。

(2) 判断理由

自己点検・評価及び情報の提供に関する目標について、当評価委員会が検証した結果、年度計画記載の2項目中1項目が「**計画を上回って実施している**」、1項目が「**計画を順調に実施している**」と認められ、この状況を総合的に勘案し、(1)のとおりの評価に相当すると判断した。

(3) 特に評価する項目

- ・ **国内最大級の進学情報 Web サイトへの登録による閲覧数の約3倍の増加、民間調査会社の「大学スマホ・ユーザビリティ調査^{※3}」において、260校中総合8位と、TOP10入りを果たしたほか、静岡県立大学が行う多種多様な研究を、定期的に静岡新聞にイラストを交えてわかりやすく掲載するなど、大学の情報発信を積極的に行った。(No. 79)**

[参考]小項目評価の集計結果

	評価対象 項目数	SS 計画を大幅 に上回って 実施	S 計画を 上回って 実施	A 計画を順調に 実施	B 計画を十分 には実施し ていない	C 業務の 大幅な見直 し等が必要
1 評価の充実	1	0	0	1	0	0
2 情報公開・ 広報の充実	1	0	1	0	0	0
合計	2	0	1 (50.0%)	1 (50.0%)	0	0

※3 大学スマホ・ユーザビリティ調査: 日経 BP コンサルティング社による大学 Web サイトの使いやすさを評価した調査

IV その他業務運営に関する重要目標

1 評価結果と判断理由

(1) 評価結果

その他業務運営に関する重要目標の進捗状況は、「**中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**」と評価する。

(2) 判断理由

その他業務運営に関する重要目標について、当評価委員会が検証した結果、年度計画記載の5項目すべてが「**計画を順調に実施している**」と認められ、この状況を総合的に勘案し、(1)のとおりの評価に相当すると判断した。

(3) 特に評価する項目

- ・ **教職員に対する働き方改革への対応や、育児・介護休暇等の取得のための研修を実施し、周知を行ったほか、有期雇用職員における休暇制度の見直しを実施するなど、働き方改革への取組を進めている。** (No. 82)

[参考]小項目評価の集計結果

	評価対象 項目数	SS 計画を大幅 に上回って 実施	S 計画を 上回って 実施	A 計画を順調に 実施	B 計画を十分 には実施し ていない	C 業務の 大幅な見直 し等が必要
1 安全管理	2	0	0	2	0	0
2 社会的責任	3	0	0	3	0	0
合 計	5	0	0	5 (100.0%)	0	0

業務実績評価集計表（令和元年度）

区分		評価対象 項目数	SS 計画を大幅 に上回って 実施	S 計画を上回 って実施	A 計画を順調に 実施	B 計画を十分 には実施し ていない	C 業務の 大幅な見直 し等が必要
教育研究等	教育	41	1	0	38	2	0
	研究	12	0	3	9	0	0
	地域貢献	8	0	0	8	0	0
	グローバル化	5	0	0	5	0	0
	合 計	66	1 (1.5%)	3 (4.5%)	60 (90.9%)	2 (3.0%)	0
法人経営	11	0	1 (9.1%)	10 (90.9%)	0	0	
自己点検	2	0	1 (50.0%)	1 (50.0%)	0	0	
その他	5	0	0	5 (100.0%)	0	0	
総合計	84	1 (1.2%)	5 (5.9%)	76 (90.5%)	2 (2.4%)	0	

業務実績評価集計表（平成 30 年度）

区分		評価対象 項目数	A 計画を 上回って実施	B 計画を 十分に実施	C 計画を十分には 実施していない	D 計画を 大幅に下回る
教育研究等	教育	82	4	74	4	0
	研究	26	1	25	0	0
	地域貢献	14	3	11	0	0
	グローバル化	9	1	8	0	0
	合 計	131	9 (6.9%)	118 (90.1%)	4 (3.0%)	0
法人経営	19	1 (5.3%)	18 (94.7%)	0	0	
自己点検	4	0	4 (100.0%)	0	0	
その他	12	0	10 (83.3%)	2 (16.7%)	0	
総合計	166	10 (6.0%)	150 (90.4%)	6 (3.6%)	0	